

# コロナウイルス対応 新しいステージへ 各団体トップにきくボウリングの今後



全国に発出されていた緊急事態宣言は、最後に残っていた関東1都3県と北海道も5月25日に解除され、新型コロナウイルスへの対応は新たなステージに入った。プロ野球やサッカーのJリーグ開幕が決まるなど、スポーツ界にも動きが出てきた。気になるボウリングの現状と今後の方向性などを、JPBA、JBC、BPAJ各会長にうかがった。

◀ 昨年のジャパンオープン決勝

「中断していたシーズンも  
いよいよ再始動します」



谷口 健

JPBA (公益社団法人日本プロボウリング協会) 会長

1試合を消化しただけで今シーズンはストップしていましたが、ようやく再開に向けて準備に入っています。前半延期になった大会も含め、スポンサー

さんや会場センターさんの意向も踏まえながら、できるかぎり開催する方向でスケジュール調整を行っています。

本大会2日前に苦渋の決断で

中止になった KUWATA CUP では、参加を予定していたボウラー、観戦チケットを持っていたファンの皆様に多大なご迷惑をおかけしました。次回開催に向けて、最善を尽くしたいと思っています。また3月に開催予定だった新設の住建ハウジングプレゼンツ・チャンピオンズカップも、万全の準備をしていただけに本当に残念でした。開催していただけるように、今後も努力を続けてまいります。

昨年から今年にかけて、新設トーナメントが数多く誕生し、プロボウリング改革の機運が高まっています。このコロナ騒動で水を差された形ですが、その気持ちは揺らいでいません。リモートワークという言葉が今年の流行語になりそうですが、ボウリングは離れた会場同士でリモートを使った対戦も可能です。そんなボウリングならではの

特性を生かした新機軸の企画も進行していて、近々発表できると思います。

日本プロボウリング協会は、公益社団法人でもありますし、責任ある立場として感染予防には最大限の配慮をしなければなりません。再開当初は出場人数

の制限や、無観客での開催の可能性もあります。しかし秋以降いい方向に収束し、1日も早くトーナメントへ皆様をお迎えできることを願っています。その折にはぜひ会場に足を運んでいただき、選手への盛大な声援をお願いします。

「万全の感染対策で  
来場をお待ちしています」



中里 則彦

BPAJ (公益社団法人日本ボウリング場協会) 会長

新型コロナウイルスへの対応を通じて、改めてボウリング場の経営者って素晴らしいと思いました。強制力のない自粛要請に応じて休業をし、営業の再開にあたっては、ボウリング場からクラスターを出さないという決意のもと、日場協でつくった感染症対策ガイドラインを上回るような各センター独自の工夫で実践してくださっています。テレビ各局なども、ボウリングに対しては、そういう取り組みを好意的に紹介してくれました。

ただ再開したといっても、営業時間の短縮や、密を避けるためにボックスに入る人数の制限、リーグや教室などの再開を控えたりと、まだまだフル稼働できる状況にはなく、経営面では厳しい状況が続いています。開場から50年前後のセンターが多く、施設・設備の老朽化も相まって、営業の継続を断念す

るセンターも出てきています。6月にはリモートを利用した理事会がありますが、これ以上ボウリング場を減らさないという決意で臨みたいと思います。

今後の場協会が関わる大会では、グリコセブンティーンアイス杯や、宮様チャリティーなどは実施する方向で準備をしています。とくにジャパンオープンは、7月の初めにJBO (日本ボウリング機構) の代表の会合が予定されており、そこで議題になるとありますが、業界が一致団結して復興への象徴となるような大会にできないかと考えています。

ボウリングは、ステイホームでたまったストレスの解消はもちろん、全身を使った有酸素運動で、免疫力を高める効果もあります。全国のボウリング場では、万全の感染予防対策をして、皆様のお越しをお待ちしています。

「こういう暗い世相にこそ  
スポーツの果たす役割が…」



北川 薫

JBC (公益財団法人全日本ボウリング協会) 会長

ようやく緊急事態宣言が解除され、自粛を強いられていた各業界でも経済活動をスタートしています。テレビではどの局も、ボウリング場の再開の様子を取り上げていましたが、私が画面をとおして感じたのは、各センターの感染予防への懸命の取り組みとともに、中・高年の方がいかに運動に飢えていたかとい

うことでした。

プロ野球やJリーグも開幕が決定しました。私はかねてから事務局に、とにかくやる方向で動いてほしいとお願いしていました。そうでなければ、6月に入っていきなりやってもいいですよといわれても、対応できません。JBCでもまずはNHK杯全日本選抜選手権の開催が

決定しました。当協会の齋藤良太郎専務理事が中心になってNHKと打ち合わせを続けていましたが、9月24日から26日に埼玉・新狭山グラウンドボウルで実施し、最終日の決勝は今年もNHK・Eテレで放送が予定されています。

その他中・高選手権なども実施することを前提に、日程調整を行っています。10月に開催予定の鹿児島国体は、6月中に実施の可否が決定されるようですが、中止の可能性が高いようです。

もちろんスポーツ庁や日本スポーツ協会の意向は尊重しなければなりません。私自身はスポーツや芸能などは、可能な限りやるべきだという立場です。先ごろ中止が決定した高校野球夏の甲子園大会も、なにかやる方策があったのではないかと、今でも残念に思っています。東日本大震災のときもそうでしたが、こういう暗い世相のときこそ、スポーツの果たす役割は非常に大きいと思います。